

サッパと老人

1966
作品ナンバー0070

今日、結核で死ぬ人は少なくなっている。「治せる」というだけで結核は過去の病いとして忘れられようとしているが、患者数は少しも減少していない。特に組織に入っていない老人の中には一度も健康診断を受けていない者も多かった。



三陸の海は厳しい。シケで荒れた海は、人々の生活を貧困と無知の中に閉ざしている。海を目前にしながらか海が遠くなって、漁夫たちは小さな船でも遠くまで出かけなければならない。岸近くでできる磯漁は、留守を預かる老人や女たちの仕事である。夕暮れ時、仁平のサッパと呼ばれる磯舟が浜に帰ってくる。娘のイクノは魚市場で働いている。イクノの夫は遠洋漁業に出ていて長いこと帰ってこない。孫のユミ子は保育園に通っている。

ある日、園児のツベルクリン検査で、ユミ子が結核に感染していることがわかった。保健婦からイクノは、仁平も診察する必要があるといわれた。仁平は家で咳き込むことが多い。イクノは、仁平にユミ子の発病を告げ、仁平にも診察が必要なことを話す。しかし、結核をマキ（血統）だと信じている仁平は頑固に診察に行こうとしない。

海に出られない日、仁平は眠っているユミ子を見てハッとする。部屋の隅にある痰紙を集めて燃やし、不安を友達の漁師に話すが一蹴される。仁平はサッパを出し、漁をする。ユミ子の顔が浮かんで、うつらうつらしているうちに、突然激しい喘息に襲われる。長いこと波にゆられて漂っていた仁平は、アワビの禁猟区で、結核にはアワビがいいといわれたことを思い出し、禁を犯してアワビを取り始める。だが塩で目をやられてうまくとれない。家に帰っても心は晴れない。思いあぐねて仁平は医師の石川が釣りをしている船着場を訪ねる。部屋から薬を発見したイクノは父が診療所へ行ったことを知り、安心する。

劇
35ミリ
白黒／36分

- 企画
(財)結核予防会
- 協力
宮古市
劇団麦の会

スタッフ

- 製作
村山英治
大西雅夫
- 脚本
吉田タキノ
村山正実
- 演出
堀内 甲
- 撮影
江連高元
- 照明
菱沼誉吉
- 音楽
間宮芳生
- 語り
永井智雄

出演

仁平：大久保喜一郎
ユミ子：山根元子
イクノ：長岡ひろ子
保母：梅村綾子
保健婦：加賀幸子
石川医師：田中 茂
老人C：小本初太郎
他